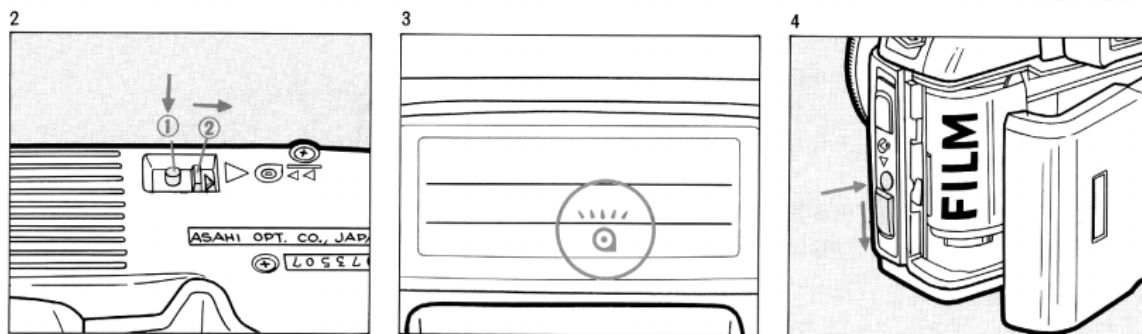




2. 図のように、カメラ下部カバーの①のボタンを押したまま、②のレバーを▶側のマークの方に「カチッ」と止まるまで動かすとフィルムが巻き戻されます。
[撮影枚数の表示も減っていきます。]

3. 巻き戻しが終了するとQが点滅し、「撮影枚数」の表示が消えます。

- スイッチが「入」になっていないと、フィルムの巻き戻しができません。
- 巻き戻しは、24枚撮りフィルムで約20秒です。

4. 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。
カメラを使わないときは、スイッチを必ず○にして電源を切っておきます。

- フィルム巻き戻し終了のQマーク点滅を確認してから裏ぶたを開けてください。
- フィルムの規定枚数以上の撮影をすると、最後のコマは現像所でカットされる場合があります。

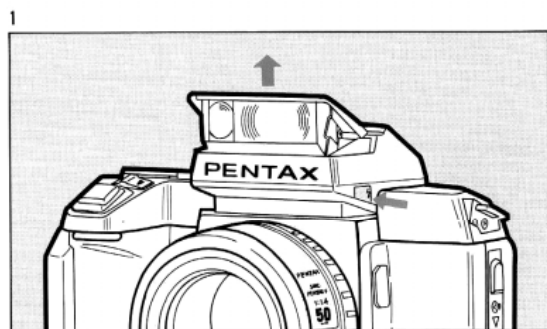
27

12. 内蔵ストロボで撮影します

1. プログラムストロボで撮影します

プログラムストロボは、周りが暗いときや逆光のときなどに、周りの明るさに合わせて、シャッター速度と絞りが自動的に組み合わせられ、簡単にストロボ撮影ができます。

使用できるレンズは、接写撮影用のマクロレンズを除く、35mmから210mmまでのレンズです。

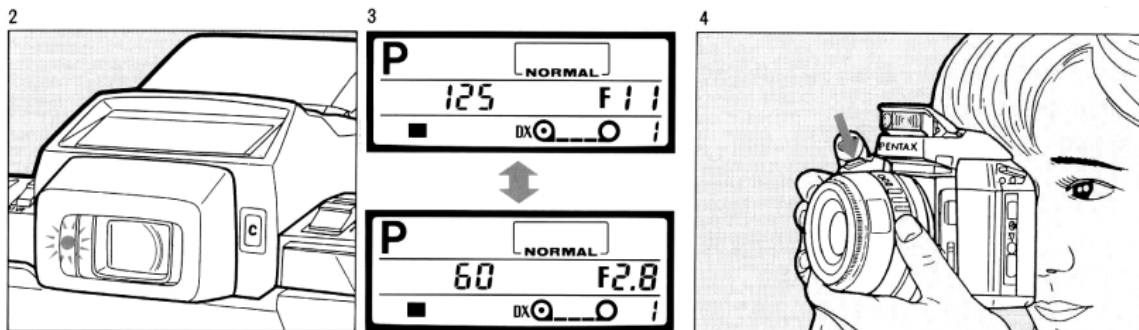


1. プログラム自動露出に合わせます。
図のように、黄色の■ボタンを押して、ストロボを上飛び出させます。
充電が自動的に始まります。[充電時間は、約3秒です。]

プログラムストロボの撮影範囲の目安表

開放F値	撮影範囲
F1.4～2.8	1.4m～5m
F3.5	1.1m～4m
F4.5	0.9m～3.1m

[ISO 100のとき]



2. 内蔵ストロボの充電完了は、ファインダー窓の左横[アイカップF内]の赤ランプで確認します。
3. シャッターボタンを軽く押すと表示パネルにストロボ同調速度と絞りが表示されます。
[ファインダー内の  は表示しません]

4. さらにシャッターボタンを押して、ストロボ撮影をします。

● プログラムストロボ

レンズの絞りがAのときは、被写体の明るさに応じてストロボ同調速度[1/60・1/125秒]と絞り[F2.8~F11・ISO 100]が周りの明るさに合わせて変化するので、日中でもストロボ撮影が簡単にできます。

- 非常に明るい所での日中ストロボ撮影は、露出オーバーになることがあります。
- 撮影が終わったときや撮影をしないときは電池を無駄にしないよう、必ずストロボを収納してください。

29

[内蔵ストロボで撮影します]

ご使用上の注意

- ① ストロボ充電中は、必ずシャッターボタンから指を離します。
- ② 内蔵ストロボ発光禁止警告について
下記のFレンズのときは、充電が完了してから、シャッターボタンを軽く押すと、安全機構が働いて、ストロボ充電完了ランプが点滅し、ストロボが使えないことを警告します。
シャッターを切ってもストロボの発光が中止され、自動的に一般撮影に切り替わります。

- 35mm未満のレンズ
- 210mmを超えるレンズ
- マクロレンズ

これは、画面の四隅が暗くなるようなケラレが出たり、レンズの本体がストロボの光路を遮って、画面下部に半円形のケラレが出たりするためです。この機構は、Fレンズ[レンズにsmc PENTAX-Fという記号が表示されています。]に組み込まれていますが、他のレンズでは警告が出ませんから、お使いになる場合には、充分にご注意ください。

- ③ ストロボの光路を遮ることがありますので、レンズフードは使わないでください。また、35mmの広角レンズでは、1m以上の撮影距離でご利用ください。[ISO 100でF3.5のとき1.1~4m]
- ④ 目が赤く写るとき
一般に「赤目現象」と言われ、周りが暗いと瞳孔が開くため、網膜にストロボ光が反射して発生する現象です。発生するかどうかは個人差もあるようですが、完全に防ぐことはできませんので、人物を撮影する場合には、周りを明るくして、瞳孔を閉じる方向に持って行ったり、ズームレンズの場合は、広角側にして近距離で撮影するなどの方法を利用してください。

- ⑤ 近いものと遠いものを一緒に撮影するときに、遠い方に絞りを合わせますと、近いものに余計に光が当たることになり白っぽく「露出オーバー」になることがあります。

2. 手動絞りで使うとき

この内容は「いろいろな機能の操作編」をお読みいただいた後にご覧ください。また、30ページの「ご使用上の注意」も改めてお読みください。

ピントを深く合わせたいときなどに、ご自分で絞りを調節して使うことができます。

この場合は、絞り優先自動露出[38ページ]かマニュアル露出[40ページ]にして、絞りを手動にして使います。

使用する絞りから、ストロボでの撮影範囲の目安を計算します。

- └ 遠距離側の目安 $GN \div$ 使用絞り
└ 近距離側の目安 遠距離側目安 $\div 3.5$
[0.6m 以下の近距離では使えません。]

※ GN = ガイドナンバー

また、距離が先にわかっているときは、撮影距離から使用する絞りを計算します。

$$GN \div \text{撮影距離} = \text{使用できる絞り}$$

計算で出た数字が例えば「3」というように「4」「2.8」のいずれでもないときは、一般的に数字の小さい方の絞り「2.8」に合わせます。

なお、GNは使用するフィルム感度〔ISO〕により下の表のようになります。

ISO 25 → GN 7	ISO 200 → GN 20
ISO 50 → GN 10	ISO 400 → GN 28
ISO 100 → GN 14	

ここで、ISO 100のフィルムを、絞り F3.5で使うときの操作をしてみましょう。

1. レンズの絞りを F3.5 に合わせます。
2. ストロボ撮影の撮影範囲を計算します。

$$GN14 \div F3.5 = 4 \text{ m}$$

$$4 \text{ m} \div 3.5 = 1.14 \text{ m} \rightarrow 1.1 \text{ m}$$

3. 4 m から 1.1 m の範囲でストロボ撮影をします。

31

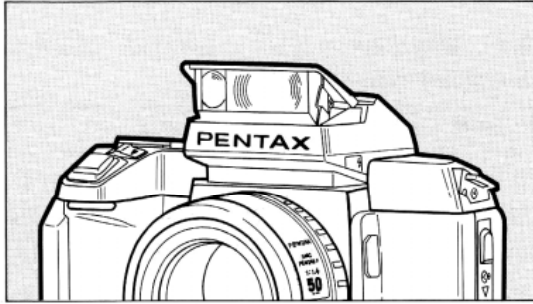
13. AF スポットビームを使います

暗い所では、オートフォーカスができなくなりますが、SFX_N では内蔵ストロボを飛び出させて、シャッターボタンを軽く押すと、赤色光が自動発光して約 1 ~ 4 m の範囲でオートフォーカスを働かせることができます。

この赤色光を「AF スポットビーム」と言います。

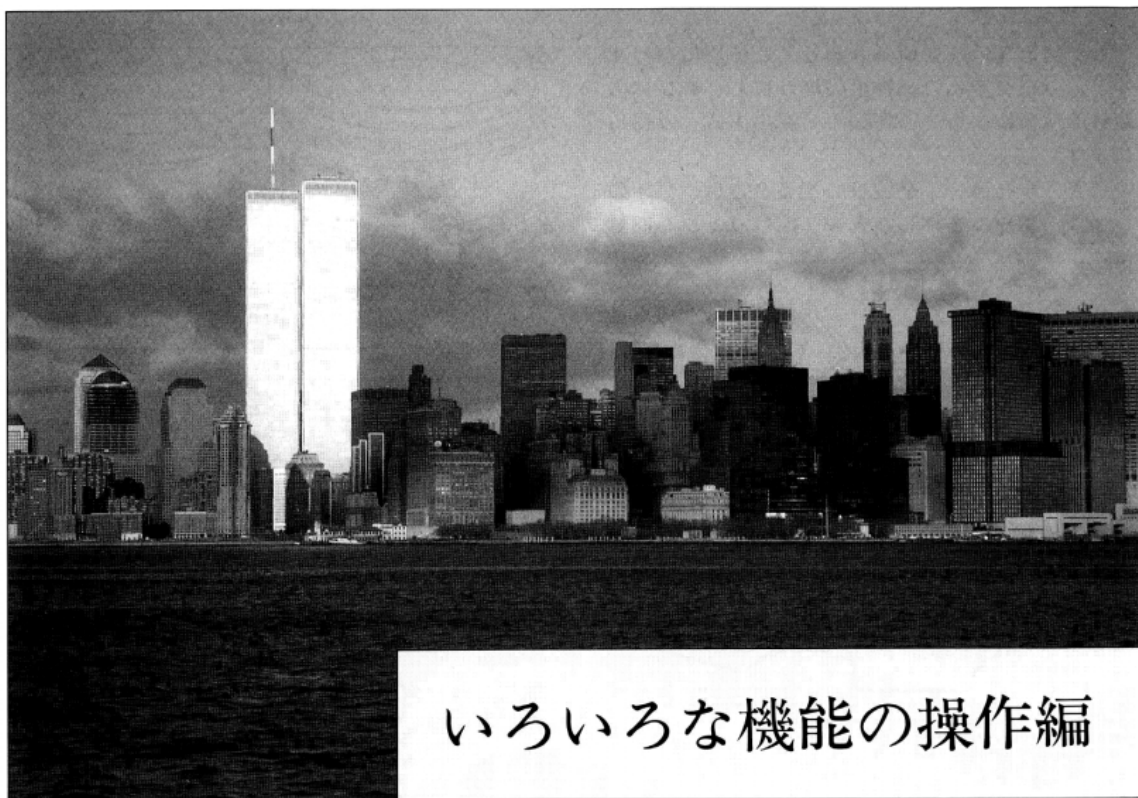
- AF スポットビームは、F レンズまたは AF アダプター 1.7× を使用して、**AF** [オートフォーカス] の **SINGLE** [シングル] のときのみ働きます。
- ストロボを使わないときは、ピントが合った所で、フォーカスロック [20ページ] をしたまま、内蔵ストロボを収納して撮影することもできます。
- 明るい所では AF スポットビームは働きません。
- **▶◀** が点滅しているときは、ピント合わせができないときです。[44~46ページをご覧ください。]
- AF 400FTZ や AF 240FT の AF スポットビームを使うときは、内蔵の AF スポットビームは働きません。

基本撮影編はこれでおしまいです。⇒



内蔵ストロボのまとめ

ガイドナンバー〔GN〕	14〔ISO 100 のとき〕
充電時間	約 3 秒 〔6 V リチウム電池〕
使用フィルム感度	ISO 25~400
プログラムストロボでの 撮影範囲	約 1.4 m ~ 5 m 〔F2.8 のとき〕
使用レンズ	35 mm から 210 mm まで 35 mm は 1 m 以上でお使いください。 マクロレンズは除きます。



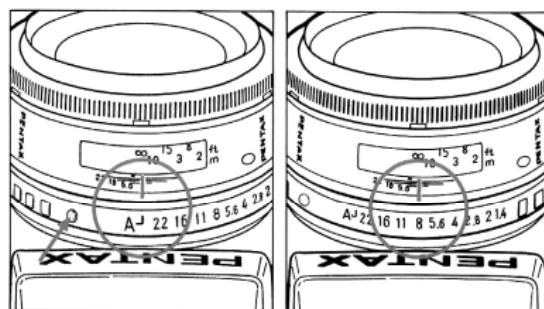
いろいろな機能の操作編

33

SMC PENTAX-F[Fレンズ]とSFX_Nでの「露出方式」の組み合わせ

FレンズとSFX_Nを組み合わせでご使用になりますと、プログラム自動露出のほかにも、レンズの絞りの位置によって、各種の「露出方式」が得られます。

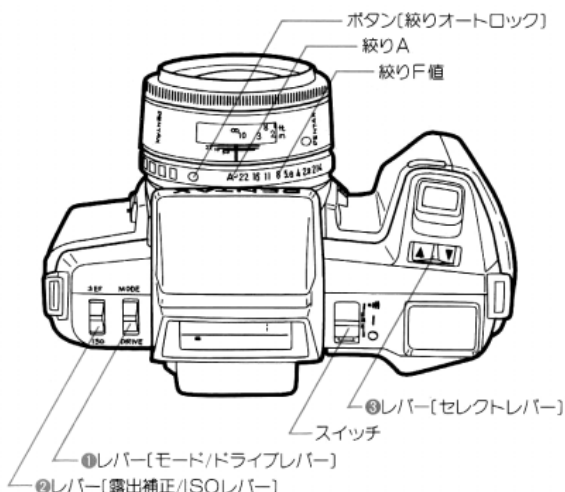
絞りをAまたは、手動絞りにするときは、矢印のレンズのボタンを押したまま、絞りリングを回します。



I A 絞り A	プログラム自動露出 [高速・ノーマル・深度] シャッター優先自動露出
11 8 5.6 手動絞り	絞り優先自動露出 マニュアル露出 bulb[バルブ] 125[1/125秒]

手動絞りで使うときの注意

開放F値が変わるズームレンズは赤線指標の横の色点が望遠側の絞り指標になります。[Fレンズの説明書もご覧ください。]



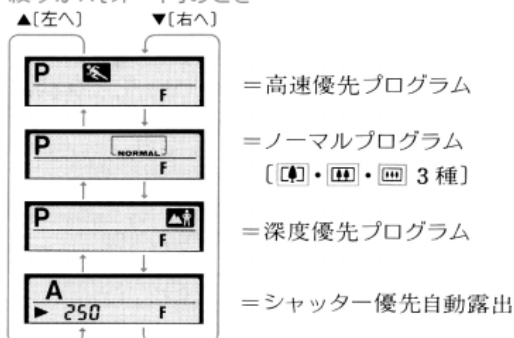
露出方式の選び方

1. レンズの絞りを **A** か **A** 以外に合わせます。
2. スイッチを **|** か **||** にして、電源を「入」にします。
3. 左図 ①のレバーを **MODE** [モード] 側に押したまま、③の **▲▼** レバーを右か左に一回づつ動かして、露出方式を選びます。
右図のように、「露出方式」の表示が変化します。
▲▼ レバーを押したままにすると、表示が早送ります。

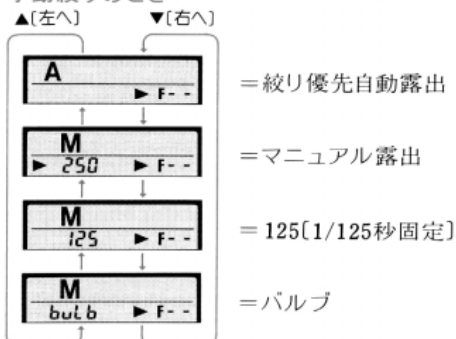
シャッター速度の選び方

- シャッター優先自動露出やマニュアル露出では、**▲▼** レバーを動かして希望のシャッター速度にします。
- ▲** レバーでは4000[1/4000秒]、**▼** レバーでは1[1秒]まで表示します。
- ▲▼** レバーを押したままにすると、表示が早送ります。

絞りがA[オート]のとき



手動絞りのとき

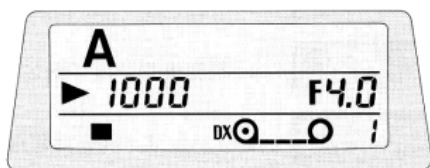


35

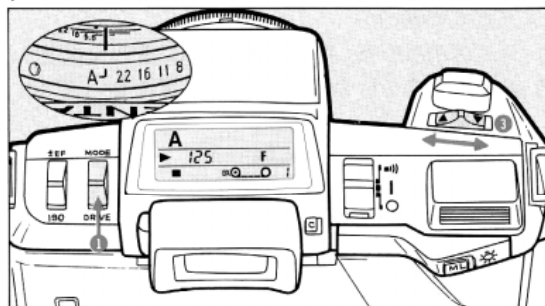
シャッター優先自動露出の使い方

シャッター優先自動露出

希望のシャッター速度に合わせると、被写体の明るさに応じて絞りが自動的に変わり、適正露出が得られます。速い速度で動きを止めたり、遅い速度で動感を表現するのに適しています。

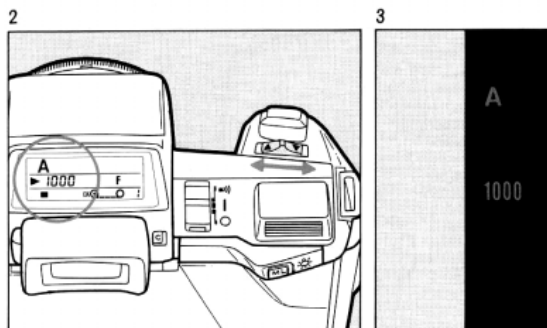


1



1. 絞りを **A** に合わせます。

図のように、**A** と「▶シャッター速度」が表示されるように、①のレバーを **MODE** [モード] 側に押したまま、③の **▲▼** レバーを動かしてシャッター優先自動露出にします。



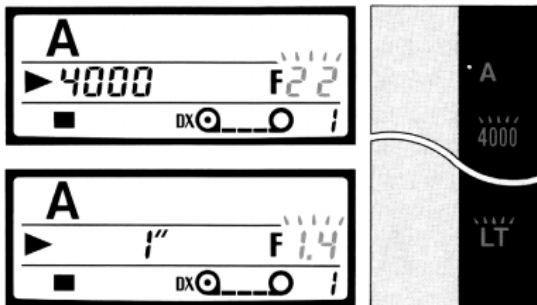
2. シャッター速度を選びます。

早い速度にするときは、**[▲▼]** レバーを「左」へ、遅い速度にするときは、「右」に動かします。

- 一回づつ動かすごとに表示が変わり、押したままにすると早送りします。
- 4000[1/4000秒]～1[1秒]まで表示します。

3. シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に **[A]** と、選んだ「シャッター速度」が光ります。[表示パネルには、選んだ「シャッター速度」に応じた「絞り」が表示します。]

※



※露出警告

被写体が明る過ぎたり暗過ぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。

遅い速度[L T 側]、または、早い速度[4000側]に変えて、点滅しなくなれば撮影ができます。

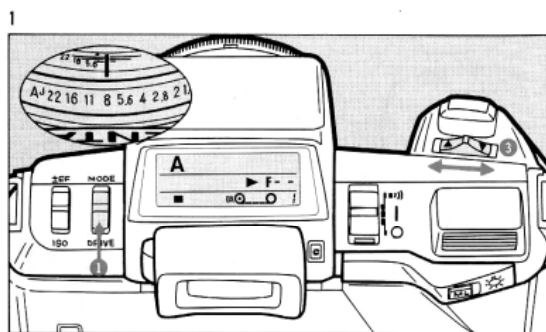
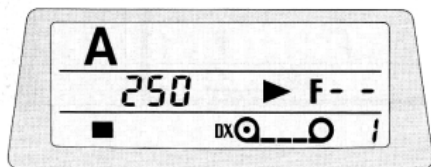
30～LT[1/30～1/2秒以下]のシャッター速度〔橙色〕になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使つての撮影をおすすめします。〔露出警告表示、64ページもご覧ください。〕

37

絞り優先自動露出の使い方

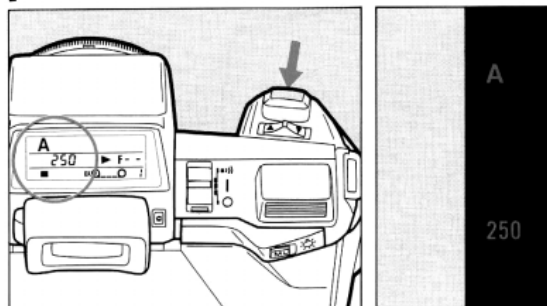
絞り優先自動露出

希望の絞りを合わせると、被写体の明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わって適正露出が得られます。ピントを深く合わせたい風景や集合写真、接写、また、人物中心にピントを合わせ、背景をぼかしたいときなどに適しています。

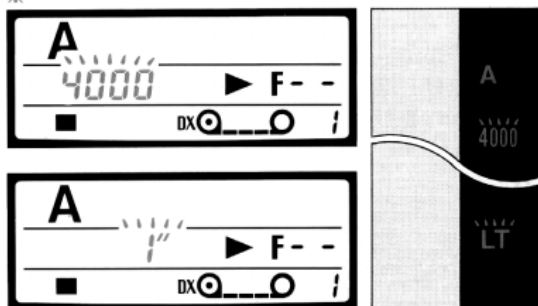


1. 手動絞りにします。

図のように、**[A]** と「**▶ F--**」が表示されるように、①のレバーを **MODE** [モード] 側に押したまま、③の **[▲▼]** レバーを動かして絞り優先自動露出にします。



2. シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に **A** と、選んだ絞りに応じた「シャッター速度」が光ります。[表示パネルには、「シャッター速度」が表示されます。]



※露出警告

被写体が明る過ぎたり暗過ぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。

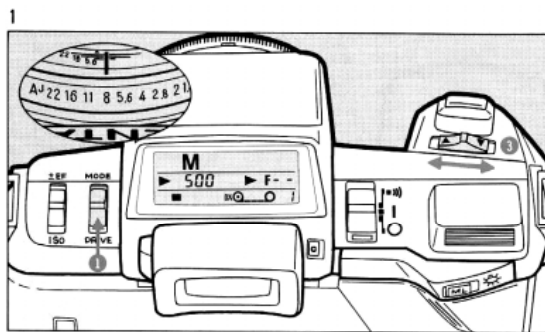
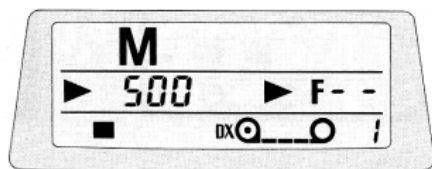
絞りリングを「F22など」大きい数字の方へ回すか、「F1.4など」小さい数字の方へ回して点滅しなくなれば撮影できます。

30～LT[1/30～1/2秒以下]のシャッター速度[橙色]になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使つての撮影をおすすめします。[露出警告表示、64ページもご覧ください。]

マニュアル露出の使い方

マニュアル露出

露出計の指示に従って、シャッター速度や絞りを調節すれば、適正露出が得られますが、撮影者の作画意図に合わせた露出で、撮影することもできます。

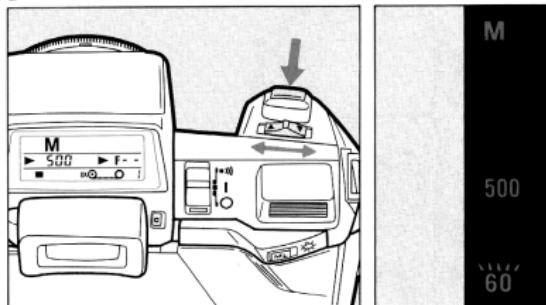


1. 手動絞りにします。

M と「▶シャッター速度」「▶F--」が表示されるように、①のレバーを **MODE** [モード] 側に押したまま、②の **▲▼** レバーを動かしてマニュアル露出にします。

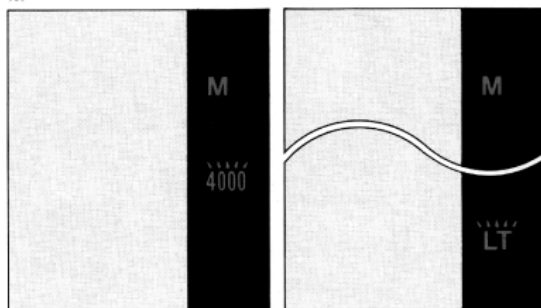
- マニュアル露出のときは、 [オートブラケットティング]は使えません。





2. シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に「M」と「シャッター速度」が光ります。図のように、シャッター速度が点滅したときは、露出が合っていないときです。「▲▼」レバーでシャッター速度を変えたり、絞りを調節して、点滅が消えて一つの表示が光るようにすれば適正露出になります。

- 絞りリングを回しても適正露出にならないときは、シャッター速度を合わせ直します。
- シャッター速度を変えても、適正露出にならないときは、絞りを合わせ直します。



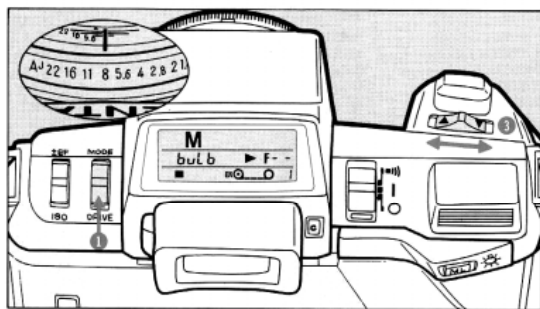
※露出警告

被写体が明る過ぎたり暗過ぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。

絞りリングを「F22など」大きい数字の方へ回すか、「F1.4など」小さい数字の方へ回して点滅しなければ撮影できます。

30～LT[1/30～1/2秒以下]のシャッター速度〔橙色〕になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使つての撮影をおすすめします。〔露出警告表示、64ページもご覧ください。〕

bulb [バルブ]・125 [1/125秒]

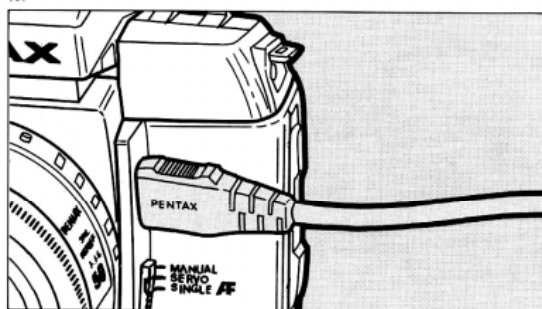
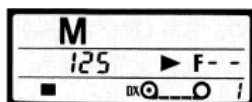
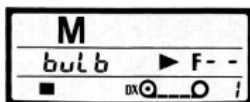


bulb [バルブ]

花火・夜景などの長時間撮影にご利用ください。シャッターボタンを押している間だけシャッターが開いています。

125 [1/125秒]

ホットシューに取り付ける一般のストロボを使うときにご利用ください。シャッター速度は1/125秒に固定されます。



絞りは、手動絞りにします。

①のレバーを「MODE」〔モード〕側に押したまま、③の「▲▼」レバーを動かして「bulb」〔バルブ〕または、「125」〔1/125秒〕の表示を出します。

シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内に、バルブのときは「M」、125のときは「M」と「125」が光ります。

バルブ撮影

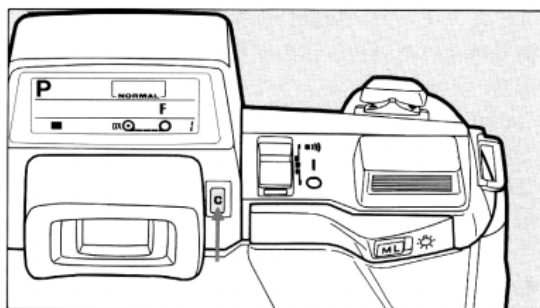
※バルブで撮影するときは、しっかりした三脚を使用し、左図のように別売りの「ケーブルスイッチF」をリリースソケットFに差し込んでご使用ください。

- 新品の6Vリチウム電池や単3形アルカリ乾電池〔常温〕で、約10時間の長時間露出〔タイム〕ができます。
- bulb〔バルブ〕のときは、☉〔セルフタイマー〕☉☉〔トリプルセルフタイマー〕、☑〔オートブラケットティング〕は使えません。

125[1/125秒]

一般のストロボを使うときは、使用フィルムの感度や撮影距離または、ストロボの設定絞りに応じてレンズの絞りを合わせなくてはなりません。〔使用ストロボの説明書をご覧ください。〕

- 125[1/125秒]のときは、☑〔オートブラケットティング〕は使えません。



クリアーボタンを押すと、露出方式 **MODE** や撮影方式 **DRIVE**、露出補正 **±EF** などを、即座に下表のような標準使用に切り替えられます。

露出方式	レンズ絞りA位置→ノーマルプログラム
MODE	レンズ絞りA以外→絞り優先自動露出
撮影方式	→1コマ撮影
DRIVE	
露出補正	→±0.0
±EF	

43

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカス機構は高精度のものですが、万能ではないため被写体の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによっては、ピントが合わないことがあります。〔マニュアルフォーカスでも同じです。〕

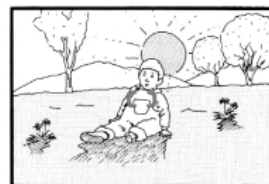
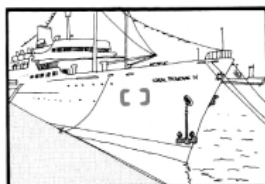
このような場合は、フォーカスロック撮影や暗い所では内蔵ストロボを利用してお使いください。

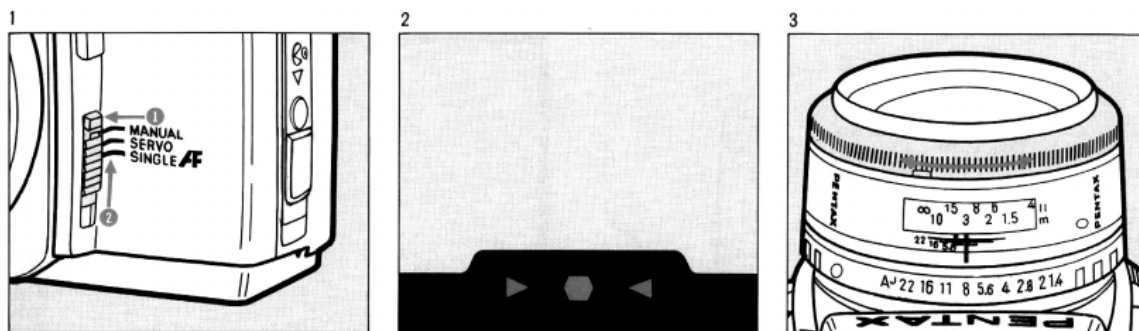
- 白壁などコントラスト〔明暗差〕の非常に低い被写体。
- 光を反射しにくい被写体。〔真黒いものなど〕
- 非常に速い速度の被写体。
- 横線のみ被写体。細かい模様の被写体。
- 遠・近の物が〔 〕の中で混在する被写体。
- 反射の強い光、強い逆光、周辺が特に明るい被写体。

アクセサリーの注意

下記のアクセサリーでは、AF〔オートフォーカス〕や▶◀〔フォーカス表示〕によるピント合わせができませんから、マツト部分〔46ページ〕でピントを合わせてください。

- 特殊なフィルターや「マジックイメージアタッチメント」・「ステレオアダプター」などを使ったとき。
- SFX_Nはミラーにハーフミラーを使っているため、一般用偏光フィルターは使えませんので、円偏光フィルターをお使いください。
- 「接写リング」や「オートベローズ」を使った拡大接写。





従来のペンタックスK_AおよびKマウントレンズで、開放F値がF5.6以上の明るいレンズ[F5.6～F1.2]を使うときは、ファインダー内の▶◻◀に従って手動によるピント合わせができます。なお、K_{AF}マウントレンズ[Fレンズ]でも、**MANUAL** [マニュアル]にすると同じ操作になります。

1. 図のように、①のボタンを押したまま、②のレバーを押し上げて **MANUAL** [マニュアル]に合わせます。
2. シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内 ▶◻◀ のいずれかが表示されます。
3. フォーカス表示の ▶ [右へ] または、◀ [左へ] の方向に合わせて、レンズの距離リングを回します。◻ が緑色に光れば撮影できます。

● スイッチが ◻ なのは、電子音で知らせます。

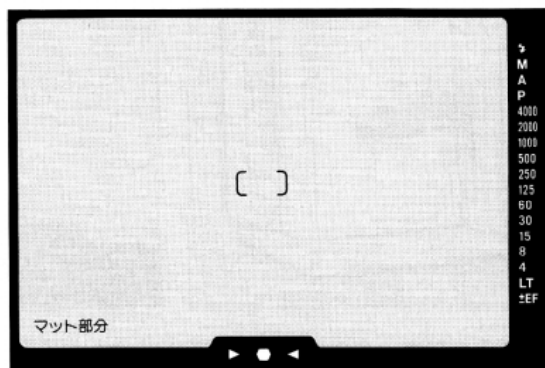
45

マット部分でのピント合わせが必要なとき



下記のようなときは、▶◻◀ [フォーカス表示] が利用できませんから、ファインダーの [] マーク以外のマット部分を使って手動でピント合わせをします。

- 「オートフォーカスの苦手な被写体」や ◻ が出ないとき。
- 開放F値がF5.6より暗いレンズ。
- ペローズ100mm F4・シフト28mm F3.5 [シフト時] レフレックスタイプのレンズ。
- 旧タイプのねじ込み式タクマーレンズに、別売りの「マウントアダプターK」を取り付けて使うとき。



「マット部分でのピント合わせ」は、[] マークに関係なくスクリーンのマット部分でピント合わせをすることです。